



大学併設校としてのメリットを生かし、関西大学と連携し、大学のさまざまな授業を体験できる「中大連携プログラム」。

「もつと中高が連携したらいいのに」という意識が芽生えたし、次の代につながっていくのだと感じます。入江さん 私はいまバスケットに入っていますが、練習で高校生と試合ができるのはすごくいい経験。やっぱり技術レベルも体力も中学生とはぜんぜん違うし、勉強になることがいっぱいあります！

分の好きなものを紹介するからか、熱くなる人も多くて。勉強やクラブ、委員会以外にも自分をアピールできる場があるのはすごくいいと思います。BPのおかげで僕も以前より本を読むようになったし、実際に学校図書館の貸出件数データもかなり上昇したそうです。入江さん 生徒会にでも入ってない限り、学校生活の中で大勢の人の前で話す機会はなかなかありません。とてもいいチャンスになると思います！

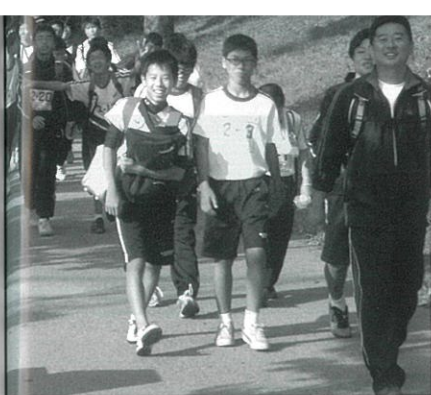
校長先生からの応援メッセージ



「関西大学の併設校となって10年が経ちました。生徒たちには『この学校の校風を創るのはキミたちだ』と語り続けています。さまざまな機会を与え、生徒がどんどん前に出てくれることを期待しています。いろいろなことに挑戦しながら自分の道を見つけたいという人は、ぜひ本校へ！」(田中敦夫校長)

の体験や、研究学生へのインタビューなど、中学のうちから、関西大学のリソースを使っているいろいろな経験ができるんです。なかでも私が驚いたのは、本格的な数学研究の世界。もう、数学が趣味、みたいな人たちが「世の中にはこんな人たちがいて、こんな世界があるのか！」と衝撃でした。入江さん 最初は、そもそも大学でどんなことが学べるのかさえよくわかっていませんでした。でも人工血管の事例を見学して「すごい！こんな形で医療に関わることもできるんだ！」と感動して。今は理工学部を目指しています！

か、いまは建築系に進みたいと考えてるようになりました。——では最後に、卒業生のお二人に、関西大学北陽で学んだことと将来の展望を交えて、後輩たちにメッセージをお願いします！



縦割りの班を組み、中学生全員でチャレンジする「ウォーキングトライ」。自然の中を歩く喜びを感じるとともに、最後には学年を超えてみんなで達成感を味わうことができる。



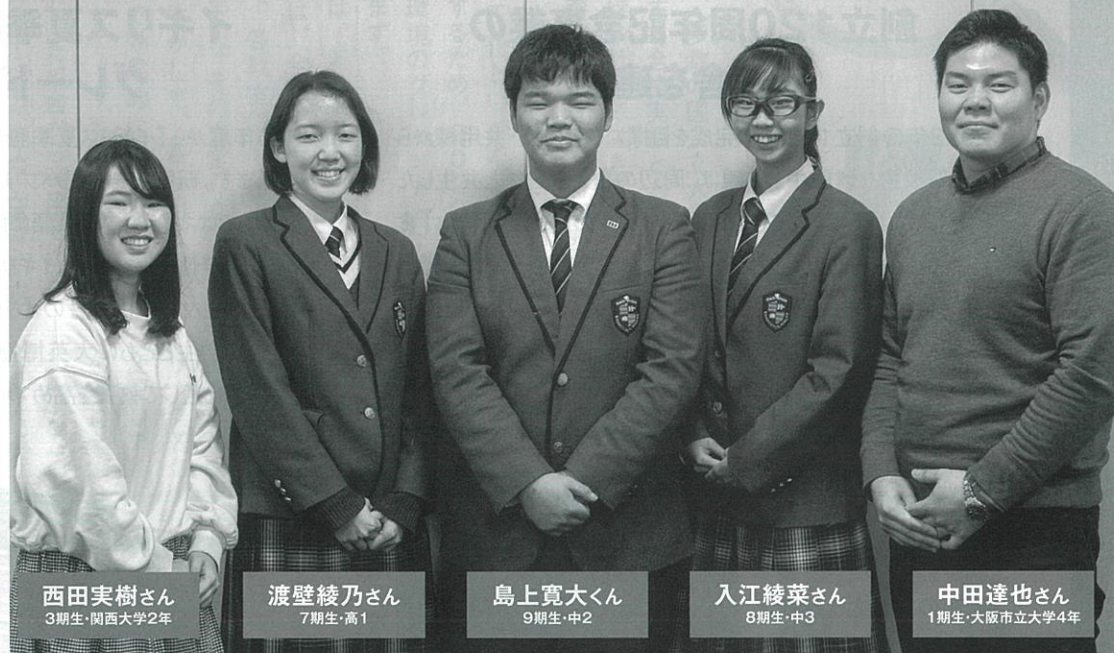
自分のオススメの本を皆の前で紹介する「ブックプロジェクト」。これを機に読書をする生徒も増えたという。

中田さん その緊張感は、上級生も同じ。どうやって後輩の緊張を解きほぐしてあげたらいいか、けつ

こう頭を悩ませている。「何部に入っているの？」とか、話のきっかけをつかむことを意識していたよ。

2008年に関西大学の併設校「関西大学北陽高等学校」となり、2010年には中学校が開校。それから10年が経過し、今春いよいよ1期生が社会へと巣立ちます。生まれ変わった母校の学びで、彼らはどう成長したのでしょうか。卒業生と在校生に、膝を突き合わせて語ってもらいました。

関西大学北陽



西田実樹さん 3期生・関西大学2年

渡壁綾乃さん 7期生・高1

島上寛大くん 9期生・中2

入江綾菜さん 8期生・中3

中田達也さん 1期生・大阪市立大学4年

“先輩・後輩”そして“関西大学”二つのつながりで、僕たちは成長

中学校開校から10年。縦割りの学校行事など、先輩・後輩の接点が多いことが関西大学北陽の特徴の一つですね。島上くん 僕がまず思い浮かぶのは「体育祭」です。関西大学北陽では、中学校・高校で別々に体育祭を開催するので、中学体育祭は、中3が中心となって後輩をリードしてくれれます。入江さん 今年度、中3として初めて後輩を引っ張る立場になりました。まずは、中3で団結しないといけないし、上下関係を越えた一体感を生み出すのは難しいけれど、やりがいがありました。西田さん 後輩をリードする経験って大学に入ってもきつと活きるよ！サークル活動などでリーダーシップを求められる場面は必ずくるから。

——縦割り行事の中でも「ウォーキングトライ」は名物だそうですね。西田さん 約25kmを踏破する中学生全員での行事なんですけど、中1のときなんて先輩がすごく大人に見えて、最初は「どうしよう！」と思ってました(笑)。中田さん その緊張感は、上級生も同じ。どうやって後輩の緊張を解きほぐしてあげたらいいか、けつ